

第4章 施策の方向性と成果指標

この章では、現状の課題に対して、5つの「将来像」を実現していくための「施策の方向性」と、その達成度を測る「成果指標」を示します。施策の方向性のうち(6)白旗山都市環境林と(7)推進体制の確保については、5つの「将来像」の実現を推進するために必要な施策です。

施策の方向性と成果指標の取組の期間は、本方針の取組期間(おおむね10年)を想定します。この施策の方向性を基に、各施策に取り組んでいきます。

1 施策の方向性

(1) 森林の施策の方向性

- 手入れ不足の人工林は、公益的機能を発揮するために、森林整備を進めていきます。
- 将来的に天然林への移行を目指す方向性がある一方で、ゼロカーボンや木材生産等の観点から人工林を継続する意義も高いことを見据え、森林の将来像を提案・設定し整備を進めます。
- 森林の将来像に誘導するため、「森林整備・森林保全の基本型」を定め、効果的な森林整備を進めます。
- 私有林の整備では森林経営管理制度の活用が重要となることから、札幌市における基本的な枠組みを定め、効率よく整備を進めていきます。
- 市有林についてはその存在価値を整理した上で、将来像に向けた整備を進めます。
- エゾシカによる森林被害対策やヒグマに関する市の計画と連携した対策を行います。

(2) 林業の担い手とスマート林業における施策の方向性

- 林業の担い手を様々な視点から増やすよう取り組むと同時に、既存の事業者の体制強化も図っていきます。
 - ・市内の森林整備を進めるためには、事業者の拡大や林業従事者数の増加等を進める必要がありますが、それは容易なことではありません。そこで、発注形態の工夫や林業への新規参入事業者の検討等、様々な視点から取り組む必要があります。
- 人口減少を見据え、限られた労働力で森林整備等が進むよう、スマート林業の導入に取り組んでいきます。
 - ・スマート林業は労働の省力化だけでなく、安全性も向上するため、労働環境の改善にも有効です。

(3) 木材利用における施策の方向性

- 道産木材の利用について、公共施設における利用を一層進めるほか、民間建築物における利用やバイオマス利用等の促進を検討します。
 - ・都市(まち)の木造化推進法の趣旨を鑑み、道産木材利用を促進する対象範囲を民間建築物含む建築物一般へと広がります。

○市産材の利用を進めることで、道産木材全体の利用を促進します。

・札幌市で生産した木材で、札幌市内の建築物の木造化・木質化を図ること等は、市民にとって身近に感じられることから、道産木材の活用の広報を行う点で普及啓発の効果が高いと考えます。

(4) 市民や企業との森づくり活動における施策の方向性

○普及啓発を重要視し、できるだけ多くの人々が自ら森林に関心を持ち、森づくりの体験ができるよう、様々な場面で取組を行います。

○札幌市でこれまでも推進してきた森林ボランティア活動や企業の CSR 活動について引き続き支援し、行政のパートナーとして森林整備等に一緒に取り組んでいきます。

(5) 自然歩道等における施策の方向性

○より多くの市民が利用できるよう、これまで登山をしたことがない方でも楽しめるような立地等条件の整った自然歩道等を中心に整備を進めます。

○選択と集中の考えのもと、自然歩道等の施設の効率的効果的な運用が行えるよう、施設量の低減を視野に入れた上で自然歩道等のあり方を整理します。

・市民の森の利用者数が現行の自然歩道よりも少ない傾向にあることや、郊外の開発リスクが低下してきたことなどの状況を踏まえ、市民の森事業は見直しを行います。

(6) 白旗山都市環境林における施策の方向性

○多様な施業を行う森林整備、森林と木材利用の普及啓発の拠点、森林を活用したウェルネスの推進等、本方針の取組全体を体現するモデル的な森林として、積極的な利活用を進めていきます。

・白旗山都市環境林は広い人工林を有し、緩勾配で路網が発達している等、木材を生産する環境として条件がよい森林です。また、政令指定都市内にあり多くの市民が利用できる森林であることから、普及啓発等さらなる利活用が望めます。このようなポテンシャルをもつ市有林は全国でも随一であることから、森林を最大限活用し、本方針における取組を効果的に進めていきます。

(7) 推進体制の確保における施策の方向性

○林業分野は専門性が高いことから、技術・知識の面で各機関に助力を仰ぐと同時に、市の体制の強化と職員の技術力向上に向け、様々な手法でこれに取り組めます。

・森林環境譲与税の導入や森林経営管理法の施行により、森林整備に関する市町村の役割が大きくなり、業務量が拡大しています。また、札幌市では市職員の林業に関する専門的知識が不足している状況です。推進体制の確保についても森林環境譲与税を有効に活用しながら、取組を進めていきます。

2 成果指標

「将来像」を実現していくための「施策の方向性」の達成度を測る「成果指標」を5つ示します。

施策の方向性のうち(6)白旗山都市環境林と(7)推進体制の確保については、その施策の推進が5つの成果指標の達成度に影響します。

分類	成果指標	現状値 (2022)	目標値 (2032)
森林	CO2 吸収の増加量(2022 年度との比較)	0 t-CO2	2,023 t-CO2
林業の担い手と スマート林業	札幌市の森林整備発注業務等の入札に参加した林業事業者数	2 事業者	7 事業者
木材利用	森林環境譲与税を活用して道産木材を利用した市有建築物数	26 棟	76 棟
市民や企業との 森づくり活動	市民ボランティアや企業 CSR による市有林への植樹・苗寄付の本数(2023 年度からの累計)	0 本	45,000 本
自然歩道等	見直しを行った登山道の割合	0%	75%